

令和2年度上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会（第2回）
会議録

【日 時】 令和2年11月18日（水）9：30～12：00

【出席者】 委員 10名（中山委員、鶴谷委員、美馬委員、服部委員、牧浦委員、安中委員、渡邊委員、東谷委員、岩井委員、西山委員）

担当課

（まちづくり創生課） 4名
（教育総務課） 5名
（総務課） 2名

【欠席者】 委員 4名（梶野委員、平塚委員、森川委員、高井委員）

【傍聴人】 0名

【事務局】 5名（阪本部長、中川理事、辻村補佐、日高係長、高野主事）

1. 開会

・10名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2. 議題

（1）上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○まちづくり創生課

【空き家バンク登録物件の説明会の開催】、【登録物件の測量及び活用事例の紹介】、【貸主と借主の仲介】、【近隣自治体との空き家バンクの共同運営】、【空き家への事業者入居及び町民雇用の促進】、【町内事業所勤務者の入居促進】

担当課：＜空き家バンク登録物件の説明会の開催、登録物件の測量及び活用事例の紹介、貸主と借主の仲介、近隣自治体との空き家バンクの共同運営、空き家への事業者入居及び町民雇用の促進、町内事業所勤務者の入居促進について説明＞

安中委員：片岡台1丁目では8軒から10軒ほど空き家があるが、最近、何軒か新しい家が建っている。近所の方に聞くと、病院などの施設に入った方が亡くなって、家族の方が家を買ったという経緯であった。こういうケースが多いと、なかなか空き家対策が進まないように思うが、空き家対策を進める上で、例えば、長年空き家となっているところにコンタクトをとるような取組をやっているのか、今後やるつもりがあるのかお聞きしたい。

担当課：来年度、5年前に行った空き家の実態調査を再度行う予定で、その中で所有者の方にアンケートをとるようにしており、その内容も踏まえてどういった取組を進めていくべきか検討していきたいと思っている。

安中委員：空き家の取組を推進するにあたって、上牧町の利点というか上牧町の色を出すように考えていただければ、少しずつ取組が進むように思うので、また検討してほしい。

渡辺委員：最近、小さい子どもを連れた若い夫婦が入居したり、70歳を過ぎたような夫婦が入居したり、そういう例が見受けられる。転入してきた方に、どういうメリットを見い出して上牧町に引っ越してきたのか、そういう調査をした方がよいのではないかと。上牧町に引っ越してきた理由やメリットなどが見えてきて、今後に生かせるのではないかと思う。

事務局：現在、政策調整課において、転入してきた方に対して、アンケートを実施しており、転入の理由などについて情報収集している。

安中委員：アンケートの結果を教えてください。

事務局：今手元に資料がないので、準備でき次第報告させていただく。

牧浦委員：町内の空き家については把握していると思うが、旧村の空き家は手を加えないと利活用はできない状態であると思う。また、上牧町には空き家となっている改良住宅・町営住宅も多く、これも手を加える必要がある状況である。改良住宅・町営住宅の空き家があるのにもかかわらず、旧村の方に手を伸ばすということはできないと思う。片岡台地区、桜ヶ丘地区では、空いたところに若い人がくることはあるが、旧村では難しい。以前多世代交流事業を新町の古民家で行っており、それからサロン片岡もそうだが、町の関与があって初めて、旧村の古民家は利活用ができると思う。信州とか吉野の奥とか、そういうところであれば、移住する人はいるかもしれないが、上牧町のような中途半端な田舎では難しいと思う。優先順位を決めて、改良住宅・町営住宅から取り組み、その後旧村の方に取り組む。旧村は中途半端な田舎で、旧村を動かしていこうと思うと、町の関与が必要だと思うので、そういう方向で進めた方がよいと思うが、いかがか。

西山委員：行政からの参加ということで、改良住宅・町営住宅について、町の考え方を少しご説明させていただくと、現在、町の各施設については、公共施設の総合管理計画から個別施設計画というものを作成中であり、改良住宅・町営住宅については、空き家も進んでいるので、今後、その住宅がすべて必要なのか、住宅自体をどうしていくのかというところの整理に取りかかっているところである。改良住宅は、もともと町の事業に協力していただいた方に住宅を提供するという補助事業で行っていたが、現在、改良住宅についても、返還されているところが多くなってきている。改良住宅についても、今後、一般住宅としての活用も考えられるので、現在、担当課の方で整理をしている最中であるということをご報告させていただく。

事務局：先ほど安中委員から質問のあったアンケートの件について、アンケートの調査としては5項目あり、1つ目は転入されたきっかけ（転勤、住宅購入、Uターン）、2つ目は上牧町を選んだ理由（利便性、環境等）、3つ目は引越え検討の際の情報源（インターネット、情報誌等）、4つ目は家族構成（一人暮らし、夫婦、2世代、3世代）、5つ目がその他ご意見・ご要望があればという形で項目を設けて実施している。

安中委員：アンケートで上牧町を選んだ理由として多いものを教えてください。

事務局：上牧町に転入されたきっかけについては、住宅購入が多く、恐らく家の価格等も含めて上牧町を選んでいただいていると考えている。次に多かったのは転勤、Uターンとなっている。2つ目の上牧町を選んだ理由については、1番多い数として、522名中166の方が、家賃や物価等の安さを回答している。次に多かったのが利便性となっている。3つ目として、移住検討の際の情報源については、457名中154名がインターネットの情報、次に不動産業者となっている。4番目の家族構成については、1番多いのが一人暮らしで、続いて2世代、夫婦という結果になっている。

安中委員：上牧町は駅がなく、利便性が悪いということをよく聞くが、実際に転入する方が利便性が良いと感じているということは、考え方、見方、アピールの仕方を考えるヒントになると思う。今まで駅がないことで利便性が悪いと捉えていたが、今上牧町に転入している若い世代の方が利便性が良いと感じているのは、考え方が変わってきているのかも

れない。その点についてどう考えているか。

事務局 : 利便性について、駅がないことが上牧町のマイナスイメージになっているような一面もあるが、最近では、一家に1台車があるということもあり、少し駅から離れたとしても不便を感じない、また、近鉄五位堂駅や JR 王寺駅などの主要な駅についてはバスで 20 分程度で行けるということで利便性が良いと感じている方が増えていると考えられる。若い世代が住宅を購入する場合、駅に近いと物件の価格が高くなるということもあって、価格や通勤距離等を考えて、上牧町を選んでいただいていると思っている。

安中委員 : 私の親が上牧町で家を買ったときは、利便性ではなく、自然の中で少し街から離れたベッドタウンで、10 分 15 分で駅まで行けるのが良いということで上牧町を選んでおり、それが薄れて駅がないというだけで利便性が悪いと言われるようになったが、今はそうではなく車があるのが当たり前となったので、駅がないことより、自然や安全安心、物件の安さなどの部分で考えていけば、もう少し目を向けてくれるのではないかと思う。

担当課 : 先ほどの牧浦委員の旧村の空き家について、牧浦委員がおっしゃる通り、旧村は中途半端な田舎ということもあり活用が難しいと考えている。しかし、来年度、旧村に関しても、空き家のアンケート調査を実施するので、その結果も参考にしながら検討を進めていきたいと考えている。

美馬委員 : この間アンケートをとられたと思うが、アンケートの中で、便利が悪いというのが 1 位だったと思う。私は片岡台に住んでおり、片岡台は、バスの本数が多く、片岡台 2 丁目の場合は、空き家が少しあるが、少し経つと埋まっており、そこに若い方が来られている。例えば、坪数が 80 坪の中で、1 件建てていたが、最近では区切って、買いやすいような売り方を不動産業者はしている。片岡台 2 丁目の場合、メリットは、バス停やスーパーが近いこと。桜ヶ丘も空き家となっているところがあるが、新しく二世帯住宅で建っているところが、以前よりも見受けられるようになった。牧浦委員が言ったように、地域によって、入る入らないという問題が起きているのではないかと思う。これから、今 70 代 80 代の方たちが遠くへ行ってしまうことが 1 つ大きな問題になってくるが、便利があれば、少しずつでも戻ってきけるように思う。対策が難しい地域もあるが、町のアピールの仕方ですら変わってくると思うが、いかがか。

担当課 : 今上牧町でも空き家バンクを立ち上げて、広報やホームページで周知をしているが、それに加えて、税務課と連携し、固定資産税の納税通知書の送付に合わせて、空き家バンクのチラシを同封してもらい、アピールしていきたいと考えている。

美馬委員 : 地域ごとに空き家が何軒あるか公表しているのか。

担当課 : 地域ごとの空き家の軒数は公表していないが、上牧町全体の数は報告書の中で記載しており、全体の件数は 230 軒ぐらいである。

美馬委員 : 1 つ方法として自治会単位で動けるところもあるかもしれないので、こういう軒数を各自自治会の会長の方に共有していただいたら、今後の参考になると思う。

担当課 : 現状として、自治会の方が空き家を把握されており、来年度空き家の実態調査を行うにあたって、自治会から情報を提供していただいて、その情報を基に詳細な調査をさせていただこうと思っている。

委員長 : 空き家対策そのものについて議論すると、かなり時間がかかりそうなので、2 回目の実態調査を行うということは第 2 期目の空き家基本計画を作られると思うので、その時に今後の上牧町の空き家対策について検討し、議論を深めていただきたいと思います。

【上牧町交通政策検討会の開催】

担当課 : <上牧町交通政策検討会の開催について説明>

牧浦委員 : 最近コミュニティバスについて、色々な意見を踏まえて改善されたと思うので、こういう取組を定期的に行ってほしい。他の公共交通の利便性の向上はなかなか難しいかもしれないが、町のコミュニティバスについては、意見を取り入れながら改善していくという姿勢はすごく良いと思っている。

事務局 : 牧浦委員からコミュニティバスの話が出たが、ここでは、交通政策検討会の開催ということで審議していただくので、コミュニティバスの部分については、後ほど総務課の方で出てくるので、その中で話をしていただきたいと思う。コミュニティバスについては、今年度見直しを行い、バスの増便やルート変更を行っている。これは以前、自治会を通じて、アンケートをとらせていただき、その結果を基に、町の方で検討し、この増便につなげたという状況になっている。また、何年か先にこういう形で色々な意見があると思うので、その中で検討をしていきたいと考えている。

副委員長 : このテーマを総合戦略に載せた理由として、住民からバスの利便性について、そもそも奈良交通のバスに関しての課題として、夜遅く、運行数が少なく、塾の送り迎えで王寺駅や五位堂駅まで迎えに行っているというような実態があり、夜にバスの本数が少なくなるという声も踏まえて、奈良交通を含めて公共交通の課題を協議するということで盛り込まれたと思う。毎年この点は聞いているが、交通政策検討会をどのように上牧町は考えているのか。つまり、奈良交通やタクシー業者など、幅広い公共交通を担っている民間業者の方を含めた会議体を作って、鉄道のない町としての1つの方向性を作っていくことを期待して戦略に掲げていると思う。検討会議を開催できていないことがずっと続いているので、どのように考えているのか、もう一度根本からお聞きしたい。

担当課 : 最終的には、奈良交通、タクシー事業者等を交えた委員会を立ち上げていきたいと思っているが、立ち上げる前に、町としてどういう方針で民間の業者を交えて協議していくか、町としての方向性をある程度考えておく必要があるので、まずは内部の検討会の実施を考えている。自治会からも、バスについて、五位堂駅行きと、王寺駅行きがあり、王寺駅行きに比べ、五位堂駅行きは少ないということで、増やしてほしいという要望があり、個別に奈良交通に要望を出したところ、この時期、特に新型コロナウイルス感染拡大で、乗客も減っており、すぐに要望に応えるのは難しいという回答をいただいている。事業者が独自でバスの本数を増やすのは、利益を出さなければならないので、その辺も含めてどうしていくか、また検討していきたいと思っている。

副委員長 : 副町長はどのように考えているかお尋ねしたい。

西山委員 : 今、奈良交通には個別には要望しているということで、今後については、今副委員長がおっしゃったように民間業者に参加していただいて、今の状況を整理しながら、増便するにあたってどういうところが必要なのか、奈良交通にしても営利を目的として運行されているので、利用者が少なければ増便しないという結論になる可能性もあると思う。そういうことから、この検討会については、総合的な交通網、歩道も含めて交通網整備として、上牧町の交通網をどう形成すればいいのかというところの検討も兼ねていると解釈している。そこで、今質問があったような奈良交通等々、民間業者との協議の場として、上牧町の地域公共交通協議会というようなものも立ち上げて、その中で検討を行

い、検討内容を町民と共有しながら、議論ができるように、できるだけ早く協議の場を作っていきたいと考えている。

副委員長：以前アンケートをとって5年ぐらい経っているので、情報が古いかもしれないが、住民から一番要望が多かったのはバスの話であり、高齢化が進むことは間違いないので、待ったなしのような状況になっているのではないかと思う。上牧町の実情にあった形で話を進めてほしいというのが町民の総意ではないかと思う。

担当課：5年も経っている中で、一歩も進んでおらず大変申し訳ない思っている。今後副町長が言ったように、協議会を立ち上げて、検討させていただきたいと考えている。

委員長：公共交通をどうするかというのは、国際的にも極めて大きな課題で、特に上牧町は地理的に見ても重要なので、ぜひ具体的に動かしていただきたい。国際的に見るとヨーロッパでバスの無料化を行っている自治体が100を超えるぐらい増えており、かなり効果も出ている。非常に住民のニーズも強い分野なので、色々な取組を参考にしながら、ぜひ具体化していただきたいと思う。

【上牧町魅力発信ツアーの実施】、【広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営】

担当課：＜上牧町魅力発信ツアーの実施、広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営について説明＞

(意見なし)

【滝川整備事業】

担当課：＜滝川整備事業について説明＞

安中委員：アンケートをとったり住民の声を聞くと、滝川は綺麗なのかという意見がある。それと、高速道路の方に、黒いゴムの風船みたいなものがあり、それが一時的に膨らんで川の水を止めたり、抜いたりしているようで、あれは何なのかを調べると、どこかの田んぼに水を流すために必要だということで、設置されているとのこと。今それが使われているかどうかは不明だが、滝川の水をまず綺麗にしないと、下まで降りて子どもに足をつけさせることはできないというのが地域住民の話だったりする。水質に関して、まず第1に考えていただければと思うが、その点いかがか。

担当課：滝川の水質に関しては、下水道の整備が進んでおり、汚水が流れることはほとんどない。川は高田土木事務所の管轄になっており、毎年、草の除去について要望している。昨年度も一部実施しており、今年度も、部分的に草の除去をしていただく予定になっている。町では滝川遊歩道の整備を進めており、健康をテーマとして、公園の健康遊具等の整備も行い、歩いてもらう。滝川は上牧町の中心にあり、そこを核として、色々なところに行けるので、歩いてもらって綺麗な滝川を知ってもらいたいということで、高田土木事務所の方にも要望しながら、川を綺麗にしていきたいと考えている。

安中委員：住民の方の耳は早いので、例えば、少しでも川に汚水が流れているという情報が流れると子どもに足をつけさせることはできない。川が綺麗であることをアピールしていく必要があると思う。楽まち(NPO)の方でも、年2回の冊子を配っており、意見を伺ったりするが、川が綺麗なのかという意見がある。周辺整備を行っても、足はつけられないというような意見もいただくので、そこを第1に考えてほしいと思う。

服部委員：関連の質問で、そもそも水辺で足をつけるような考え方で整備しているのか、綺麗に整

備したところを見てもらい、そこを歩いて健康になってもらうことを目的にしているのかをはっきりしてほしい。私の近所の葛下川でも、水は綺麗になっているが、足をつけるとかそういうことができる状態ではないので、そこを明確にして住民の方に説明しながら開発した方がいいと思う。

担当課 : 現在、滝川遊歩道の整備については、基本的に遊歩道を歩いて健康になってもらうことを目標にしている。また、河川の降りられるところについては、NPO 法人に協力いただきながら、将来的に水に触れあえるということを目指しており、昔のように滝川で水に触れあえる環境を整えば、川に触れ合ってもらいたいと考えている。

服部委員 : 先ほど質問があった農業用のゴムで水をとめるシステムについて、滝川整備後も続けていかないと、農家の方が困ると思う。その点はどのようにするのか伺いたい。

担当課 : 農業の風船ダムと言い、近隣の農家の方が活用して田んぼに水をくみ上げているので、農業者の方がいる限りは設置し続けることを考えている。

岩井委員 : 滝川遊歩道は上牧町の中心を通っているということで、住民の方が行きやすいところだと思うが、例えば、自宅から買い物に行く場合、車を使うことが多いと思うので、車で行った場合の駐車場などの施設はあるのか。

担当課 : 滝川遊歩道については、町民の方が家から出ていくときに、歩いていただき、健康になってもらうことを目標にしているので、駐車場の整備は予定していない。近隣に公共施設等もあるので、その駐車場を活用して来ていただくことを考えている。

岩井委員 : 以前明日香村の支店にいたこともあり、たまに休みの日に明日香村へウォーキングに行ったりするが、例えば、歩くところの近くに駐輪場や駐車場があれば行きやすく、子連れの方も行きやすいように思う。これから整備を進めていく上で、駐車場や駐輪場も必要になるかもしれないので、アンケートをとる機会があれば、そういう必要性を確認できるような項目を入れてもいいと思う。それと、例えば、ウォーキングのモデルコースのようなものを作って、距離を表示するとか、或いは近隣の個人商店も含めて商業施設へのルートがわかるような提案型の整備というものも考えていくと、地域の発展に繋がるかもしれないと思うので、また検討いただきたいと思う。

担当課 : 商業施設も含めた検討については、商工会と相談しながら、地域の飲食店等もそういうパンフレットをつくれたらなという話をさせていただいてるところである。コースについては、近隣に馬見丘陵公園もあるので、そういうところと連携するなど、近隣とも相談しながら、検討していきたいと考えている。

安中委員 : 岩井委員の意見を聞いたときに、私は住民として、町内の利便性や各施設へのアクセスについて分かっている前提で考えてしまう傾向にあるが、外から見ると、違った視点での気づきがあり、外からの視点をもっと取り入れるといいように感じた。

担当課 : 上牧町は観光資源があまりない町で、遊歩道を通っていただくと馬見丘陵公園などへ行けるということも考えて、上牧町を知ってもらうための取組について検討していきたいと考えている。色々意見をいただきながら進めていきたいと思う。

委員長 : 汚水が入っているということであれば、それを解決しないとなかなか難しいと思う。

担当課 : 汚水については、下水道が整備されたことで基本的に川に汚水は入っていない。上牧町の下水道の整備率は100%に近いので、川には下水は流れていない。

安中委員 : そういうイメージが根深くあるので、その対策として、水質を公表すれば納得できると思うので、そういう取組をお願いしたいと思う。

担当課 : 高田土木事務所の方とも協議しながら検討していきたいと思う。

委員長 : 汚水が入っていないのであれば、水質の改善もそう難しくないと思うのでぜひ進めていただいたらよいと思う。

○教育総務課

【ICTを活用した教育支援】

担当課 : <ICTを活用した教育支援について説明>

牧浦委員 : 飯田市に視察に行ったことがあるが、飯田市ではICT事業をするために、先生が週1回集まってスキルアップ講習を行っていた。例えば、上牧町でも先生が集まって、週1回、スキルを上げるために先生同士で講習を行うなど、先生のスキルアップはかなり問題になってくると思うので、ICTに精通した先生を誰か1人作って、スキルアップ講習をできるような働きかけというのはできないか。

担当課 : この分野について、得意な先生を中心として、各校で使用方法の確認や苦手な先生へのサポートなどの体制は自然にできている状況である。校内研修についても、各校で取り組んでいるということを経験として聞いている。今後教育委員会としても、先生方の研修に関するサポートについて検討していきたいと考えている。

牧浦委員 : 教える側の先生のスキルは重要で、先生ができないと子供に教えられないので、ここを重視して進めてほしい。できればKPIにそういう項目を加えるといいように思う。

安中委員 : 将来的に紙ではなく、タブレット端末のような機器に移行していくことは予想できる。ICTに特化した、技術のある人は必要だと思うが、その前にそれを使う子どもたちのことを考えると、ランドセルに入っている教科書はものすごく重たいということもあり、教科書をタブレットの中に入れてしまえば、軽くなり、健康にもよいと思う。ICTを推進していくのは、お金がかかると思うが、上牧町の子どもたちが将来にかけてデジタル機器に慣れていくために、教科書を電子化していくような考え方はできないものか。

担当課 : 今、教科書のデジタル化も言われ始めており、今後、移行されていくことは想定されるので、予算については内部で相談しながら、検討できればと考えている。

東谷委員 : 評価シートに記載されているGIGAスクール構想については、政府の補助金を活用して、高速インターネット環境を整備し、子どもたちにタブレット端末を1人1台ずつ配り、授業に使っていくという大きな構想が令和2年度を中心としてスタートしている。その中で、子どもたちにICT機器を使うための技術を教えることは、これから1人1台のICT機器が配布されるので、飛躍的に変わっていくと思う。牧浦委員の質問にあったように、ICT機器を使いこなせるよう、まず先生が学習しなければいけないということであるが、上牧町の予算の中では、令和3年度あたりからICTを扱う会社に委託し、システムエンジニアを派遣していただいて指導していただく、まず先生を指導していただいて、次に子どもたちに教えていくというような流れが必要になる。まずは県の主導で、これから400回程のICT研修が予定されており、学校の先生にICTの研修を進めていく。それに加え、上牧町でも委託料を予算化し、先生の研修を進めていくというような状況である。また、KPIのところ、勉強が好き、よくわかる子どもの割合が設定されているが、ICTを使えばその割合が増えているというのは、100%リンクするものではないと思う。ICTを活用した教育に対しては、学校の先生への研修回数とか、そういうことがKPIのところに入ってくるように思う。

- 担当課 : KPI については、改訂版で内容を変更している。改訂版では KPI を学力学習状況調査の ICT に関する質問の回答ということで設定し、取り組んでいきたいと考えている。
- 東谷委員 : KPI については、今後 ICT を使って子供たちが学習を進めていく上で、ICT を使った場合に、勉強が好きになったとか、学力が上がったとか、そういう調査結果を使っていく方がいいように思う。
- 担当課 : KPI を変更したという経緯があり、令和元年度までは、学力に関するものを KPI としており、令和 2 年度から ICT に関する質問の結果について、県平均以上を目指すというものに KPI 自体を変更している。全国学力学習状況調査の学力と同じ日に、学習アンケートみたいなものを実施するのでその結果について、上牧町として県平均以上目指すということを KPI に設定している。
- 東谷委員 : 令和 2 年度実施予定のところで、オンライン授業の可能性について検討するという表現でオンライン授業について記載されているが、高速通信ネットワークを整備して、端末を 1 人 1 台配布することなので、まず、オンライン授業について考えなければならぬ。新型コロナウイルス感染症の影響で、長期の休校となり、子ども達は全く授業を受けられない状況になった。学習保障という意味においても、オンライン授業を取り入れて授業を進めていくということが必要ではないかと思う。機器を整備しているにもかかわらず、オンライン授業の可能性について検討するという表現では、弱すぎると思う。オンライン授業を実施するためにどうしていくのか、それと並行して、教材として活用方法を考えていくということになると思う。
- 担当課 : このシートの作成については、令和 2 年 3 月時点での状況で記載している。現状としては、GIGA スクール構想で、1 人 1 台の端末と、校内 LAN 整備を進めているところである。この端末整備が完了すれば、1 人 1 台の体制が整うので、それをもって、オンライン授業の可能性についても、十分検討できるのではないかと考えている。
- 東谷委員 : 文科省では、GIGA スクール構想で、ICT 機器を使ってオンライン授業をしていくということを示されている。今から検討していくのではなく、オンライン授業をするために何をしていくかを令和 2 年度実施予定のところに記載しておかなければならないと思う。
- 西山委員 : この評価シートについては、令和 2 年 3 月末時点の状況で内容を記載するという考え方で、内部検証委員会の中でも整理をさせていただいている。現在、GIGA スクール構想の中で 1 人 1 台端末を配布することになっているが、これは令和 2 年度に入ってから、一気に話が進んだということである。その前は、文部科学省から 3 年間の中で順次、1 人 1 台端末を整備するというようになっていたが、今回、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、また、地方創生臨時交付金等も活用して、一気に端末を整備し、GIGA スクール構想を進めるということで、国の考え方に基づいて、速やかに GIGA スクール構想の実現に向けて予算を計上して進めているところである。令和 2 年度の中で話が進んだということで、評価シートでは令和元年度末時点の状況ということでこういう表現になっているが、現在、オンライン授業を進めるにあたって、教育委員会、教育総務課がどういうふうに考えているのか、東谷委員の質問に対して回答してほしい。
- 担当課 : オンライン授業については、まず各家庭のインターネット環境について調べていく必要があると考えている。現時点で小中学校の保護者に対して、インターネット環境が整っているかどうか、アンケートを実施し集計しているところである。その中で、環境が整っていないと家庭に対して、どういう形で教育委員会として援助していくかということ

も検討するために今アンケート結果を集計しているところである。今後、オンライン授業については費用面等色々なことを検討しながら進めていく考えである。

担当課 : 新型コロナウイルスの影響で、3月から6月まで学校閉鎖ということで、オンライン授業の考えは当然あったが、まだ実施できる状態ではないということで、まずはYouTubeを通した授業の配信を行った。また、7月に国から小学校5年生以下のPCについても、今年度繰り上げて補助金が出ることになり、7月末ぐらいにその分について補正予算を計上し、今年度整備することになっている。PCの納入が2月末になるので、PCが納入してから、教職員や子どもに対する研修を充実させていくという形で考えている。YouTubeで授業を配信したという経緯もあり、ICT活用も含めた新たな教育方法について今話をしているところである。またそれに加えて、国際交流という部分において、台湾の学校とのオンライン授業を最近させていただいた。これもICTの活用という部分に入ってくるので、教員の研修も行いながら進めていきたいと考えている。この評価シートについては、3月末ということでこういう表現にさせていただいている。

委員長 : オンライン授業をどう行っていくか、ここで議論するのはなかなか大変なので、また別のところで議論していただきたいと思う。先ほどのKPIについて、右側の一番下の2020年度実施予定の指標の予定のところ、研修1回というのが入っている。これと左のページのKPIはどう関係しているのか。

事務局 : 左側のページのKPIは当初戦略を策定した時に、5年間で達成させていく目標であり、評価シートの右下のところにある指標は単年度の評価をする上で、評価の根拠をわかりやすくするために独自で指標を設定している。令和2年度については、色々取り組む事業を記載しているが、それと併せて、具体的にわかりやすいようにということで、別途指標を独自で設けさせていただいてるということである。

委員長 : 左のページのKPIは、来年度も使うということか。

事務局 : 左のページのKPIについては、総合戦略改訂版に移行する前の指標であり、来年度からは改訂版で設定したKPIに基づいて、審議していただく形になる。

委員長 : 右のページの上の達成度のところで、評価の根拠として、左のところにあるKPIの目標値を使うのであれば、そのKPIの達成度がどうなっているのかわからないと達成度を判断するのは難しいと思う。

事務局 : 左側のKPIについて、表に2019年度の目標値と実績値を記載している。最終的には令和2年度に県平均以上を目標値として設定し、総合戦略を策定しており、このKPIの状況も含めて、Bの概ね目標の成果が得られたという評価にさせていただいている。

委員長 : KPIとの関係がわかるようにまた整理していただいたらわかりやすいと思う。

【子どもの読書活動の推進】

担当課 : <子どもの読書活動の推進について説明>
(意見なし)

【英語教育の充実】

担当課 : <英語教育の充実について説明>

安中委員 : 上牧町の中で、多くの外国の方がいると思うが、学校の授業で外国人の生徒がいる場合、どう対処しているのか。

担当課 : この評価シートにおける英語教育については、幼稚園児に対する英語教育の内容となっている。学校における外国から来た子どもに関しては、支援スタッフを1人配置して、通訳的な役割をしながら授業を進めているところである。

安中委員 : 現在、何人の方を支援しているのか。

担当課 : 小中学校で合わせて、5、6人の方に対して支援をしている状況である。

【体育教育の充実】

担当課 : <体育教育の充実について説明>

(意見なし)

【通級指導教室の充実】

担当課 : <通級指導教室の充実について説明>

牧浦委員 : 中学校の通級教室に関して、指導教員の数がなかなか確保できないということを聞いたが、このKPIの4人というのはどういう考え方で設定したのか教えてほしい。

担当課 : 4人の内訳について、小学校担当の通級指導教員が2名、中学校担当の通級指導教員を2名と考えて、合計の4名としている。

牧浦委員 : 学校の通級指導の予定について教えてほしい。

担当課 : 休校期間が明けてから、上牧中学校を拠点として中学校版通級指導教室を開設し、上牧中学校、上牧第二中学校それぞれの希望する生徒に対して、通級指導を実施し始めているところである。

牧浦委員 : 将来的には他町に対して募集する形になるのか。

担当課 : まずは上牧町で取組をさせていただき、指導教員が確保できた時点で、近隣の町の方にも話をさせていただくように考えている。

【県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施】、【県内優良企業や町内企業における職場体験学習】

担当課 : <県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施、県内優良企業や町内企業における職場体験学習について説明>

牧浦委員 : 32番で、ビジネスマナーを学ぶ講習会を開催することも予定しているとあるが、今まで職場体験に行く前にこういう講習会をしていなかったということか。

担当課 : 今までも職場体験学習に行く前に、講師の先生を学校にお呼びして、マナー講習会を実施している。

○総務課

【乳幼児子ども防災意識向上事業の実施】、【子供向け防災教室の拡充】

担当課 : <乳幼児子ども防災意識向上事業の実施、子供向け防災教室の拡充について説明>

(意見なし)

【コミュニティバスの利用促進】

担当課 : <コミュニティバスの利用促進について説明>

岩井委員 : 利用される方は、記載内容からすると、高齢の方が多いということか。

担当課 : コミュニティバスは町内の巡回バスであり、特に高齢の方が買い物しやすいように、商業施設に行きやすいような運行ルートで、高齢者の利便性を図っている。

岩井委員 : 王寺駅とか五位堂駅へ行くニーズも高齢の方が多いということなのか。

担当課 : コミュニティバスについては町内を巡回するルートになっている。王寺や五位堂など町外への乗り入れは奈良交通を利用させていただく。路線バスとの共存を考えて、町のバスは町内の巡回、町外へは奈良交通を利用させていただくことを考えている。

岩井委員 : 路線バスの増便は難しいという話もあったが、高齢者が町外に行く理由は色々あると思う。例えば、町内にないものがあり、町外に行くということであれば、町内にそういうものを誘致することも1つあると思う。何か町内でできないことがあり、町外へ行くということであれば、町内の活性化のために、その内容を調べてみてもいいと思う。

担当課 : 現在は商業施設や病院等に行きやすいようなルートで運行している。今後は今おっしゃるような部分についても検討していきたいと思う。

【防災訓練の定期的な実施支援】、【近隣自治体との合同防災訓練の実施】

担当課 : <防災訓練の定期的な実施支援、近隣自治体との合同防災訓練の実施について説明>

安中委員 : 上牧町でも多くの方が防災士になっていると伺った。しかし、片岡台1丁目で防災士の方は誰かと聞いても、町では個人情報で教えてくれない。今、町の防災士の方が動き始めていると伺っているので、そういう方々の協力を考えていると思うが、例えば、町から防災士の方に対して手紙を出して、防災士の名簿を地域の方に公表することを承諾してもらおうよう依頼するなど、そういう取組をしたことはあるのか。

担当課 : かんまき自主防災ネットワークという団体が令和2年7月に設立され、防災士の方が活躍できるような場を作るということで進められている。その取組として、来年の2月にかんまき自主防災ネットワークが主催で避難訓練みたいなものを予定している。自治会に対しても、かんまき自主防災ネットワークの方から参加を依頼すると聞いており、連絡があると思うので、その時は自治会の方のご協力をお願いしたいと思っている。

安中委員 : かんまき自主防災ネットワークの方は町内の防災士が誰なのか知りたいと思うので、その対応についてどう考えているのか。

担当課 : 個人情報は基本的に開示していないが、今回は、公募型補助金を使って訓練を実施されるので、個人情報を訓練以外には使わないという確約書をいただき、住所と名前をお伝えさせていただいている。

副委員長 : 近隣自治体との合同防災訓練の実施について、課長級で1回とか議論されているようだが、合同で実施できていないというのは何か理由があるのか。

担当課 : 北葛郡合同での防災訓練の実施について、担当、また課長級で集まって議論しているが、主体となる町や場所の選定など、課題が色々あり意見がまとまっていない。各町では、防災訓練を実施しているが、合同となるとなかなか意見が集約できず、担当の中でも議論しているが、実施に向けた話までは進まなかったというのが現状である。

副委員長 : これは、奈良県内で他でも広域で実施するのが当たり前なのか、それとも、何か広域で実施しなければならないモチベーションがあるのか。

担当課 : 奈良県内において、合同で実施しているところはない。奈良県の防災訓練の中で、各町が合同参加するというのがあるが、地域間での合同防災訓練というのは、今のところ県内では実施された経緯はない。

副委員長：住民レベルにおいて、合同で実施してほしいという意見があるのか。

担当課：大規模災害においては、何らかの連携等が必要ということで、この項目を挙げさせていただいたが、今後はまず訓練に向けた検討を4町で行っていくという考えである。また、地域の連携として、王寺駅を利用して大阪から帰ってくる方が避難するときの避難場所等の関係についても協議できればと思っている。令和2年度においては、そういうことも踏まえて、新たに検討会議を実施していくという考えである。

副委員長：4つの町で実施するのは温度差もあって、実現が難しいという理解でよいのか。

担当課：そういう部分もある。

副委員長：そういうことであれば、隣町とか小さな町同士で連携して実施するとか、小さな単位、自治会同士の連携などそういうことは考えないのか。

担当課：広域的な連携ということで、各町を越えた避難については、協定を結んで連携している。訓練についてはまだ連携できていない。

副委員長：他町にお世話になることは当然出てくると思う。ぜひ一步でも進めていただきたい。

安中委員：今の話の続きで、片岡台1丁目は、河合町の中学校が近いので、そこに避難できればよいと思うが、そういう連携についても話し合いをしてくれるのか。

担当課：一時的な避難、最初の避難では、隣町に行っていただいてもよい。ある程度落ち着いたら、上牧第二小学校の体育館に避難していただくということで、最初の一時避難という部分について、町外の方へ避難していただいてもよいということである。

委員長：59番の事業見直しの余地のところで、今後は感染症対策を講じた避難所運営のガイドラインを作成すると記載されているが、時間が必要というよりもすぐに実施した方がいいような内容に思うが、いかがか。

担当課：避難所運営ガイドラインについては令和2年度に策定予定である。

委員長：実質的にはすぐに実施ということか。

担当課：令和2年度において取り組んでいるところであり、評価シートの内容については、令和元年度末時点の状況で記載しているため、年度当初の段階ではまだ決まっていなかった部分となる。令和2年度の地方創生臨時交付金を活用して、ガイドラインを作成する予定になり、年度途中で決まった取組になるので、こういう記載の仕方になっている。

委員長：重要なことなのでぜひ進めていただきたいと思う。

3. その他

- ・事務局から次回の委員会の開催は1月を予定しており、1月に2回開催する予定である旨の説明を行った。

4. 閉会

以上